

# 企画セッション「天文教育コミュニティの結集に向けて」

安藤 享平（実行委員長 / 郡山市ふれあい科学館）

## 1. はじめに

今回の企画セッション「天文教育コミュニティの結集に向けて」では、各団体のご協力により、天文教育に関連する4つの団体の代表 / 担当者が集まり、ショート講演と議論をすることができました。

<今回パネラーとして登場いただいたみなさん>

- ・日本天文学会（教育委員会） 教育委員：松本直記さん
- ・日本プラネタリウム協議会 理事長：加藤賢一さん
- ・日本公開天文台協会 会長：小関高明さん
- ・天文教育普及研究会 会長：松村雅文さん

相互に各団体の活動状況や、そこに属する個人の個人となりなどはよく知っている場合は多々ある（あるいは重複して所属する方が多い）にせよ、各団体として一同に会する機会が設けられたことは、おそらく今回が初めてのことで、これが今後に向けた一歩となるものであり、非常に大きな喜びでありました。

## 2. 天文教育を取り巻く困難とコミュニティ結集の必要性

今回、このようなセッションを開催したのは、以下のポイントにあるような、さまざまな問題・課題に直面していると考えてのことでした。

天文教育を取り巻く大きな動き ~主に社会教育施設の視点から~

- \* 指定管理者制度による天文教育施設の激変
- \* 博物館法の改正議論
- \* 2009年の世界天文年に向けて

com:(教育基本法改正・学習指導要領改訂など、学校教育の現場も激変に向かっている?!)

第10回天文教育研究会 大会宣言から・・・

1: 社会教育施設の充実

十分な専門職員の配置

2: 小学校における天文教材の重要性

3: 中学校理科に宇宙全体までを含めること

4: 高校理科の基礎的・基本的内容の必修化

5: 理科を十分に理解した教員の配置と研修の充実

現在も指摘され続けている問題が・・・

## 天文教育施設の激変

プラネタリウム：354 館（2004年現在）

公開天文台：412施設（2006年現在）

生涯学習施設として、学校教育・一般普及の各分野と連携した活動を行う、地域の天文教育の拠点が飲み込まれた波・指定管理者制度

指定管理者制度では・・・

- \* 公共施設に民間的な！サービス・効率化を
- \* 専門性の考慮は？
- \* 長期的視点による運営は？？ Etc・・・

## 指定管理者制度に対する動き

第20回天文教育研究会で議論（会長諮問機関設置）

2006年9月：天文教育普及研究会声明

「天文教育施設に対する指定管理者制度導入に関する声明」

その後、普及研・JPS（日本プラネタリウム協会）での共同アンケート調査を経て、普及研による指定管理者制度の現状と分析を発表

一方、それまでの動きとして 2003年 日本天文学会 要望

「 - 天文学に関する社会教育施設の充実 - 」

- 1) 科学館等、社会教育施設の一層の充実
- 2) 専門職員の確保と適正配置、職員研修の充実

## 博物館法改正についても動きが・・・

- \* 博物館定義の見直し
- \* 登録制度の見直し
- \* 学芸員制度の見直し
- \* 評価の見直し

天文分野の扱いはどうなるか？

## 博物館法改正議論に向けた動き

平成19年5月：日本学術会議 声明「博物館の危機を乗り越えるために」

指定管理者制度への憂慮

平成19年6月：文部科学省 報告書「新しい時代の博物館の在り方について」

これらの内容からも、天文教育施設の位置づけ・在り方を見直し、要望を訴える時期に来ていると言える。

## 迫ってきたビッグイベント 2009年・世界天文年

- \* 日本委員会の組織（各組織から委員として参加）
- 天文教育を実践する人々が、団結した取り組みをする必要性

天文教育に関係するコミュニティー

- \* 日本天文学会 教育委員会  
天文教育フォーラムの共催、新時代到来？！
- \* 日本公開天文台協会（2006年設立）  
普及研からの流れ
- \* 日本プラネタリウム協議会（2007年本格始動）  
今年、3つあったプラネタリウム団体が一本化
- \* 日本天文学会 教材委員会
- \* 国立天文台（天文情報センター など）
- \* 公開天文台ネットワーク 活動が教材開発にシフト？
- \* 高校生天体観測ネットワーク
- \* JAHOU
- \* 天プラ
- \* 天文愛好家の団体（OAA、黄華堂・・・）
- \* JAXA宇宙教育センター 等等

コミュニティーの結集に向けて

- \* 天文教育の抱える諸問題への団結した対応  
(大きな力を持って改善を。まずは「指定管理者制度」か？)
- \* 相互の情報交換による活性化（二度手間を避ける）
- \* 一本化した動きで、各コミュニティーでの活動が同時進行する  
(イベントに対応して、各コミュニティーからの“攻め”の天文教育を)  
これらを実施していく必要があると考え、その為には今回何が必要か？
- \* コミュニティー相互の情報共有の手法・内容についての検討
- \* 天文教育の抱える問題点の検討 それに団結して対応することで大きな力を！
- \* 具体的な行動に向けての取り組みへの一歩を踏み出す
- \* 将来像、活発な相互交流に向けた意見交換を

### 3. 企画セッションの内容

これらの趣旨をご理解いただき、各パネラーの方からコメントと講演をいただきました。  
(松本さんからは秋のフォーラム内容を含めた教育委員会の取り組みについての紹介をいただきました。また、加藤さん・松村さんの発表については後のページを、また小関さんの発表内容については日本公開天文台協会のホームページおよびそこから見られる公開天文台白書をご覧ください)

その上で議論を行いました。進行の安藤の怠慢で、十分な時間が取れず、今後の課題となりました。(集録編集時の流れとして、各団体での指定管理者制度についての共同声明の作成が進みつつあります)

## 4．おわりに

専門性を求め、また個別の内容についてより深化した内容を議論するために、各分野でコミュニティができ、活発に議論できることはよいことだと思います。一方で、運営に当たっては複数の団体に属する人・組織がそれぞれを兼務することで結果的に負担が一局に増大することや、運営する人材の不足、重複する内容のプロジェクトを各コミュニティで個別に実施したり、天文教育に関係する人が広く知りたい内容が一部のみで閉じてしまうなどの弊害もあるものと思います。

今回の企画セッションを契機に、天文教育に携わる人々／コミュニティの間での情報・ノウハウの共有が円滑に進み、またコミュニティ相互の交流も活発になることを期待しています。また、そこから多くの人々に充実した天文教育の機会を提供し、外への大きな力を発揮できるようになればと考えます。



写真左：企画セッションの様子

写真右：夜の懇親会では、各コミュニティの代表が集まった鏡割り

（日本天文学会・理事長：土佐誠さん、  
日本プラネタリウム協議会・理事長：加藤賢一さん、  
日本公開天文台協会・会長：小関高明さん、  
天文教育普及研究会・会長：松村雅文さん）